
北区の活動事例



北区

六郷学区各種団体合同パレード



【六郷学区】

■世帯数：2,292 世帯

■人 口：4,226 人

■面 積：0.272 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・「六郷学区各種団体合同パレード」を実施。六郷学区内の六郷小学校から大曾根商店街までをパレードする。
- ・学区連絡協議会、ボーイスカウト名古屋 79 団、北区少年補導委員会、六郷小学校 1 年生の児童が警察官の制服を着て参加する。

【住民への PR 方法】

学区連絡協議会にて告知

【アピールポイント】

学区内の各種団体がこぞって参加している。

2 きっかけ、背景

20 年以上前から「夏の青少年を守る運動」として、継続開催されているイベントである。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 170 人

(2) 他団体との協力

ボーイスカウト名古屋 79 団、北区少年補導委員会（40 人）

4 実施のスケジュール

平成 24 年 7 月 27 日にパレードを実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

各種団体の参加により担い手が増加した。

(2) 苦労した点

夏にパレードを実施しているため、炎天下を歩く事となり、実施時期が問題となっている。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題である。



安全確認票の作成



【六郷北学区】

■世帯数：1,977 世帯

■人 □：4,217 人

■面 積：0.335 k^m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・災害時における助け合いの仕組みづくりの基礎データとして「安否確認票」の作成を実施。
- ・学区内の全世帯に、趣意書と記入用紙を配布し提出を呼びかける。回収後、分析し、その結果を各自治会長に配布し運用開始する。
- ・趣意書には、「確認票の記入項目は個人情報であるため、保管・管理の厳格化を図る」ことや、あくまでも「提出は任意」である旨を記載し、協力を依頼した。

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布

【アピールポイント】

確認票の回収率は 50%強であるが、記入項目の分析結果から「マップ」以上の効果があることがわかった。（従来の〇〇マップは、第三者の目線で作成するが、確認票は本人が直接記述するため、「自分の思い」まで記述してある。）

2 きっかけ、背景

「支え合いマップづくり」の作成を検討している時に東日本大震災が発生した。このため、急遽「助け合いの仕組みづくり」も含めたものを作成することとし、その基礎データとなる「安否確認票」の作成に取りかかった。

3

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長
計約 15 人

(2) 運営協力

重要な個人情報であるため、町内単位で各町内会長が保管することとしているが、町内会長の不在や事故に備え、副会長および消防団までは情報を共有している。

町内会長、副会長の交代時には、
情報管理の徹底を認識することが必要。

4

実施のスケジュール

H23 年 3 月 東日本大震災発生により支え合い
マップ作りを中止

4月 安否確認票の作成および様式について検討

6月 全世帯に趣意書を送付して安否確認票の提出を依頼

8月 提出締め切り、集計開始

10月 集計完了、各自治会長に配布（運用開始）

5

成果と課題

(1) 成果・効果

- ・災害弱者となり得る人は、安否確認票にかなり切実な悩みなどを記入している。こうした情報が、災害時には大変役立つと思われる。

(2) 苦勞した点

- ・安否確認票の提出率が50%強と低く、個人情報のため、様々な理由はあるが、完全に賛同を得られたとは言えない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 安否確認票の提出率を、もう少し上げたい。
- ・ データを陳腐化させないために、定期的な見直しが必要。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 転出、転入や死亡、出生などのため、安否確認票は、随時及び定期的な点検が必要。
- ・ 安否確認票の提出者は 50%強だが、それ以外の方は学区として把握しにくいので、公的機関にお願いせざるを得ない。

[illegible]

放火防止パトロール



【飯田学区】

■世帯数：6,328 世帯

■人 口：12,539 人

■面 積：0.912km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・平成 22 年 6 月より、放火防止パトロール隊による巡視を実施している。
- ・不審火が多発した当初は、学区内を 7 ブロックに分け、各町 5～6 名ずつ参加している。1 回あたりの参加者数は約 130 人、年間では延べ約 3,000 人である。

【アピールポイント】

平成 22 年から 23 年にわたって全ブロックで実施した。（平成 24 年は 4 ブロックが実施している。）

2 きっかけ、背景

平成 22 年 1 月から 4 月頃にかけて不審火が多発したため、平成 22 年 6 月より放火防止パトロール隊を結成し、学区一斉パトロールを開始した。現在は 4 ブロックが実施している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員

4 実施のスケジュール

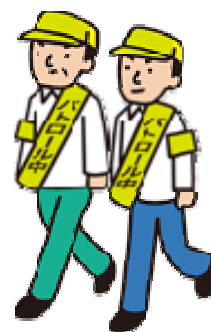
H22 年
1～4月頃 放火・火災が多発



5月 放火防止パトロール隊結成
各町内5～6名ずつ参加



6月 パトロールの実施（約 1 時間）



5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 自発的なパトロールへの参加者が多くなった。
- ・ 住民意識の向上や住民間の交流の深まりに役立っている。

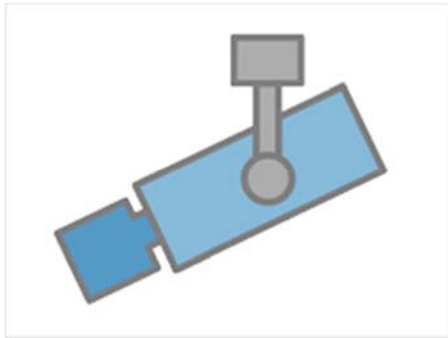
(2) 苦労した点

- ・ 参加者の確保や住民の理解を得ること。
- ・ 参加者に、目的意識を持ってもらうこと。

(3) 今後の課題・展望

- ・ パトロールをやめると再び放火が発生する危険性があるので、活動を継続することが必要である。

犯罪の無い安心なまちづくり



【宮前学区】

■世帯数：4,443 世帯

■人 □：9,070 人

■面 積：0.548k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 青少年等の非行や犯罪防止のため、防犯カメラを学区内4ヶ所に設置した。
- ・ 設置にあたっては学区民の声を参考にし、以下の場所など監視できる場所を選定。近隣民家の協力を得て設置した。
 - ① 14 歳以下の中学生、小学校高学年生の非行の溜まり場となる公園
 - ② ひったくりが過去に発生した地点
 - ③ 子どもが不審行為（痴漢）に遭った地点

2 きっかけ、背景

放火、自販機盗、集団非行等、14 歳以下の少年の犯罪的行為が多発し、中学校も対策に苦慮していた。住民からの要望や役員等の提案により、住民意識の啓発を推進し、これらの犯罪の発生を抑止を目指して実施した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、PTA、子ども会、老人クラブ

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会

(3) 運営協力

近隣民家から防犯カメラの設置場所の提供を受けた。

4 実施のスケジュール

H24 年 7 月 防犯カメラ 2 台を 1 ヶ所に設置



8 月 防犯カメラ 2 台を 2 ヶ所に設置

5 成果と課題

(1) 成果・効果

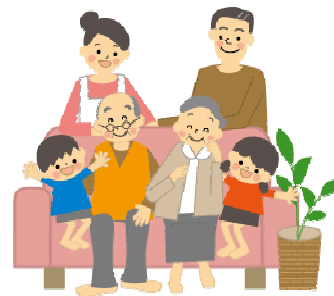
住民意識が高まり、少年非行の減少に役立っている。

(2) 苦労した点

防犯カメラの設置費用の捻出に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

継続していくための資金の確保が課題。



学区ふれあい事業



【名北学区】

■世帯数：5,386 世帯

■人 口：10,724 人

■面 積：0.728 km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

名北コミュニティセンターや名北小学校にいて、学区ふれあい事業として以下の様な多彩な活動を行っている。

- ① 60 歳以上のウォーキング大会（約 200 人参加）
- ② 小学生から高齢者までを対象とした護身術教室（約 400 人参加）
- ③ もちつき大会
- ④ 運動会
- ⑤ 盆踊り（約 2,000 人参加）
- ⑥ さくら祭り

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

どの行事にも各町内会から 10 名以上参加してもらっており、それぞれ計 200～400 人ほどが参加している。

2 きっかけ、背景

当学区では高齢化が進み、65 歳以上人口が 4 割以上となっている。高齢者や少子化のため、子どもを対象とした行事を企画し、住民参加を呼び掛け、交流の機会としている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員、青少年育成、PTA の OB
計約 50 人

(2) 他団体との協力

体育委員、老人会、子ども会、青
少年育成、PTA

(3) 運営協力

PTA や PTA の OB、体育委員の
若手にも呼びかけて参加してもらう。

4 実施のスケジュール

H23 年 4 月 桜まつりを開催し、コミュニケーションを図る



5 月 ウォーキング大会を開催
自主防災会（夜のパトロール）



7 月 盆踊り大会を開催



12 月 もちつき大会を開催



H24 年 4 月 桜まつりを開催



9 月 護身術教室の開催

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者が増加した。
- ・住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・住民の理解を得ること。
- ・活動の担い手が不足している。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続のために、担い手の世代交代、活動資金の確保、他団体との協力が必要である。



辻ジュニアスポーツクラブ



【辻学区】

■世帯数：2,801 世帯

■人 □：6,715 人

■面 積：0.804 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 子どもたちの健全育成を目的に、ジュニアスポーツクラブを運営している。
- ・ 辻小学校児童全員を対象に募集し、第 1・3 土曜日にソフトボール、第 2・4 土曜日にサッカーを行っている。延べ参加者数は 1 か月あたり約 100 人である。

【住民への PR 方法】

辻小学校児童全員に周知している。

【アピールポイント】

全員が元気よく楽しくスポーツに取り組んでいる。そのことで、元気に挨拶ができるようになり、学年間の交流も深まっている。また、コーチの指示をしっかり受け止めることができるようになった。

トワイライト運営委員会、学校、PTA、協議会が一体となって企画・運営を担っている。

2 きっかけ、背景

児童が休日に元気よく遊ぶ（スポーツをする）ことが少なくなった。また、元気なあいさつができていない。

そこで、スポーツを通じて子どもの健全育成を図るために活動を始めた。



3 実施の体制

(1) 運営メンバー

PTA、スポーツ推進委員、トワイライト運営委員会 計約 10 人

(2) 他団体との協力

愛知フットボールクラブコーチ、
地域ソフトボール有志

4 実施のスケジュール

H19 年 4 月 ソフトボールジュニアを立ち上げ



H22 年 4 月 サッカージュニアを立ち上げ
トワイライトスクール運営と協働



H23 年 4 月 ソフトボール、北区リーグに参加

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 参加者が増加した。
- ・ 子どもたちの技術力、体力が向上した。また、前向きに取り組む姿勢が見られ、元気よくあいさつができるようになった。

(2) 今後の課題・展望

- ・ 活動を継続すること。そのための活動資金の確保が課題。



盆踊り大会



【杉村学区】

■世帯数：3,241 世帯

■人 □：6,489 人

■面 積：0.495 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 障がい者支援団体のNPO法人わっぱの会と合同で、盆踊り大会を開催している。
- ・ 杉村小学校校庭において、盆踊りのほか、飲食やゲーム等の模擬店、うちわに記載の番号で抽選会を開催している。
- ・ わっぱの会は、たこ焼きやパンを販売している。

【住民へのPR方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

障がい者へのさりげない思いやりと、ごく自然な交流ができている。

2 きっかけ、背景

平成 23 年まで 4 年間、わっぱの会が学区内の別の場所で盆踊りを開催していた。その後、わっぱの会から、ある町内会長を通じて申し入れがあり、検討の結果、盆踊りを一緒に開催することになった。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、学区連絡協議会全団体

(2) 他団体との協力

NPO法人わっぱの会

4 実施のスケジュール

H24年 6月 わっぱの会より共催について申し入れがあり、役員会を経て共催を決定

6～7月 わっぱの会と打ち合わせ（数回）

7月23日 合同で練習実施

7月28日～29日 盆踊り開催

8月初旬 反省会

5 成果と課題

今後の課題・展望

今の所は何とか、大過なく終了できている。
今後も活動を継続していきたい。

平成 24 年度
夏まつり (盆踊り大会)
杉村学区

日時：7月28日(土) 7月29日(日)
午後6時30分～9時
場所：杉村小学校グラウンド

模擬店：ダーツゲーム(お菓子・おもちゃ)・スノーボール(氷)・
ジュース各種・スーパーボールすくいゲーム・
玉せん・みたらし団子・うちわ配布
たこ焼き(わっぱの会)・パン(わっぱの会)
〔食料も先に買ってください〕

大抽選会：うちわに記載の番号で抽選！(先着600名)
28日：特等・1等・2等・3等・わっぱ賞10本
29日：特等・1等・2等・3等・わっぱ賞10本
注意：自転車置き場がありませんので、徒歩でお越しください

練習日のお知らせ
日時：7月23日(月) 午後6:30～8:30
場所：杉村小学校体育館
※お子様・学区の皆様・小中PTAの皆様、多数参加してください

主催 杉村学区連絡協議会 共催 杉村学区女性会・NPO法人わっぱの会

古本回収による「福祉図書室おおすぎ」



【大杉学区】

■世帯数：2,904 世帯

■人 口：6,202 人

■面 積：0.612k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・学区内で不要になった古本を回収し、大杉小学校において約 1 万 2 千冊を並べ福祉図書室を開設。お茶などの飲み物も提供し、地域の憩いの場として活用している。
- ・毎週日曜日の午前 11 時～午後 4 時までを開放時間とし、本の貸し出しも行っている。また、古本の回収も開放日に合わせて行っている。
- ・古本のクリーニングおよびブックカバー掛けは、NPO、知的障がい者施設の協力を得ている。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

古本のリサイクルを通じて、資源の再活用に貢献している。

2 きっかけ、背景

資源回収に出される本を見て、“まだ読めるのにもったいない”と感じたことがきっかけ。古本のリサイクルを通じて、学区住民の資源に対する意識の向上を図る。また、本のクリーニングやカバー掛けが縁となり、敬老会の記念品を購入するなど障がい者施設への支援にもつながっている。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、学区連絡協議会共栄会 計約 15 人

(2) 他団体との協力

福祉推進協議会、知的障がい者施設ユニオンワークス、学区連絡協議会

(3) 運営協力

学区連絡協議会共栄会（元区政協力委員）に運営協力を依頼している。

4 実施のスケジュール

H23 年～ 古本回収



H24 年 7 月～ 回収した古本の搬入



8 月 19 日 福祉図書館開所



5 成果と課題

(1) 成果・効果

利用者から「図書館が遠いので近くにできて助かる。」との声がある。

(2) 苦労した点

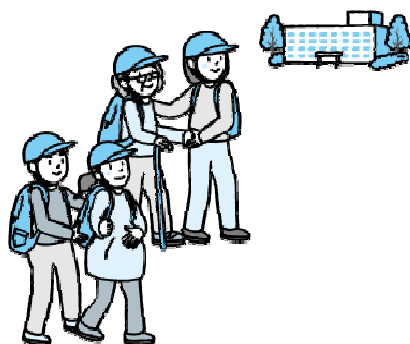
住民の理解を得ること。全くお金を掛けず、全て手作りで準備を行ったため、夏の暑い時期に部屋の掃除や本を並べることが大変だった。

(3) 今後の課題・展望

運営の協力者の確保、活動の継続が今後の課題。



災害・防火・防犯・交通・青少年育成 支え合い町づくり



【清水学区】

■世帯数：4,865 世帯

■人 口：9,974 人

■面 積：1.176k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 安心・安全で快適なまちをめざし、防災、防火、防犯、交通安全、青少年育成、支え合い活動などを行っている。
- ・ 災害対策として、特に水害対策を進めている。
- ・ 高齢者対策では、町内ごとに活動を推進している。
- ・ その他、トンボの幼虫救出作戦やクリーンキャンペーン、黒川清掃、ふれあい大運動会、防災訓練、防犯パトロール、子育て広場など、多彩な活動を実施している。
- ・ 主な活動場所は、清水コミュニティセンター及び清水小学校であり、延べ参加者数は約 600 人以上ある。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、組回覧

【アピールポイント】

こつこつと計画を立て実施している。特に役員会は、年4回以上実施している。

2 きっかけ、背景

高齢化が著しく進んでおり、その対策が求められている。そこで、学区連絡協議会として、力を合わせて活動を推進している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員

計約 40 人以上

(2) 運営協力

子ども会に呼びかけ、常に各行事に参加してもらっている。

4 実施のスケジュール

H23年4月 第68回役員会にて計画
(役員会は年4回以上開催)

6月 クリーンキャンペーンなどの実施

11月 自主防災訓練実施

通年 防災パトロール
交通安全対策(パトロールなど)
青少年育成事業

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・住民間の交流が深まった。
- ・次の世代を育てることにつながっている。

(2) 苦労した点

- ・住民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・活動の継続と担い手の世代交代が課題である。



防犯・放火防止パトロール



【金城学区】

■世帯数：6,027 世帯

■人 口：12,289 人

■面 積：1.201 k²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 防犯・放火防止パトロールを、学区を挙げて実施している。
- ・ 毎月 19 日を“119 番の日”と定め、学区一斉に活動する。
- ・ 34 町内で各町内 3 名 1 組の組織をつくり、町内一円をパトロールする。
- ・ 各町内で、自主的に企画・計画を立てて実施する。
- ・ 参加者を特定しないで、できるだけ多くの人々が交代で参加する。参加者は決まったユニフォームを着用。毎月約 119 人が参加する。
- ・ 119 人が一斉に活動し、防犯、防火防止意識の高揚を図る。

【住民への PR 方法】

自治会長から呼びかける。

【アピールポイント】

防犯・放火防止はもとより、各町内での交流が深まりつつあるのが何よりの効果である。

2 きっかけ、背景

区から放火防止活動の指定を受け、パトロールを開始。以来、継続して実施している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 18 人

(2) 他団体との協力

消防団、防犯・交通委員会、青パト隊

4 実施のスケジュール

毎月 19 日前後をパトロールの日として実施している。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

パトロール中の会話から、住民意識の高まりが見られる。また、住民間の交流が深まっている。

(2) 苦労した点

住民に参加意識があり、特に問題はない。

(3) 今後の課題・展望

町内ごとの自主的な活動に期待している。どの町内も継続する予定。

交通安全・主要交差点街頭指導



【東志賀学区】

■世帯数：4,564 世帯

■人 □：9,639 人

■面 積：0.740k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 国道 41 号線の黒川交差点において、交通安全街頭指導を行っている。平成 23 年度の延べ参加者数は約 310 人。
- ・ 毎年度、学区連絡協議会委員が交通委員を兼任している。
- ・ 原則として、10 日組、20 日組、30 日組と 3 班に編成して活動している。

【住民への PR 方法】

毎年度初めに予定表を配布

【アピールポイント】

長年にわたって継続しており、活動が定着している。

2 きっかけ、背景

多発する国道 41 号線沿いの交通事故を減少させるため、特に黒川交差点周辺の交通街頭指導を約 25 年にわたり継続して実施している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、防犯委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、老人クラブ、スポーツ推進委員、保護司

4 実施のスケジュール

年度初めにスケジュール（割り当て、当番など）を発表する。活動方法についてはほとんど例年通りに、継続している。

平成24年度 年間活動予定表

月別	活動日	活動日の目的	活動場所の指定
4月	10日(水) 20日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	4月30日(水)
5月	10日(水) 30日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	5月20日(水)
6月	20日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	6月10日(水) 6月30日(金)
7月	10日(水) 12日(金) 20日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	7月30日(水)
8月	24日(金)		8月10日(水) 8月20日(金) 8月30日(金)
9月	10日(水) 20日(金) 25日(水)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 防犯訓練(防犯訓練)	9月30日(水)
10月	10日(水) 30日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	10月20日(水)
11月	20日(金) 30日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	11月10日(水)
12月	5日(水) 10日(金) 20日(金)	防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	12月30日(水)
1月	10日(水) 30日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練) 「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	1月20日(水)
2月	20日(金)	「0」の日 防犯訓練(防犯訓練)	2月10日(水)
3月	25日(水)	24年度 総会	3月10日(水) 3月20日(金) 3月30日(金)

※ 防犯411活動推進委員会(防犯推進部) 防犯推進部、防犯推進部

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まったほか、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者数の確保や住民の理解を得ることに苦労した。また、活動の担い手も不足している。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 活動に参加した人には粗品を配布しているが、活動を継続するために、活動資金の確保が今後の課題。



城北学区防災会



【城北学区】

■世帯数：5,271 世帯

■人 □：12,488 人

■面 積：1.507 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

災害に強いまちづくりとして、以下の活動に取り組んでいる。城北小学校校庭及び体育館を活動場所としており、延べ参加者数は約 550 人である。

- ・ 住民の分布と避難所の位置確認
- ・ 協力事業所の開拓と、支援要請活動の推進
- ・ 過去の災害体験をもとにした防災訓練の実施
- ・ 指定避難所において、災害をシミュレーションした防災訓練の実施（調査票の作成、非常食の使い方など）

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示

【アピールポイント】

多くの企業、団体への支援要請活動が実り、多数の締結数になった。指定避難所候補となっているところも 1 か所ある。

2 きっかけ、背景

東日本大震災の現状を踏まえ、東海・東南海地震の強化地域であり、矢田川・庄内川に近接した学区として、災害対策に力を入れている。従来の取り組みを改善して防災規約を定め、組織の意識向上を図り、災害に強いまちづくりを目指している。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、
民生委員児童委員、保健委員、消防
団員、PTA、女性団体・女性会、子
ども会、老人クラブ、スポーツ推進
委員、交通委員 計約 180 人

(2) 他団体との協力

学区連絡協議会の構成員、地域の
企業や団体（13 か所）

(3) 運営協力

町内（自治会）ごとに、防災組織
を編成し、学区訓練を通じて人的交
流を図っている。

4 実施のスケジュール

H22 年 5 月 北区水防訓練



11 月 自主防災訓練



H23 年 4 月 学区防災規約の制定



5 月 北区水防訓練（雨天中止）



9 月 台風 15 号接近による救助地区
本部設置



10 月 自主防災訓練（15 号台風の体
験をもとに）



H24 年 5 月 北区水防訓練

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・参加者及び担い手が増加した。
- ・調査票の作成、非常食の作り方の訓練ができた。
- ・住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

- ・各自治会の認識と行動に格差があった。

(3) 今後の課題・展望

- ・一泊体験を実施するなど、訓練内容をより実
践的にすることが課題である。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・自分たちのできることを見いだして実施する
ことが重要。



水に親しめる公園・親水公園で遊ぼう



【光城学区】

■世帯数：4,700 世帯

■人 口：10,314 人

■面 積：0.812k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 庄内用水を、自然について学ぶことのできる住民の憩いの場として整備するとともに、環境イベントを開催し、住民による維持管理を行う。
- ・ 整備計画から施工までを行政と協働して行った。学区集会所で5回にわたってワークショップを開催し、合計 77 人が参加した。
- ・ 光音寺公園や庄内用水で、水際に植物を植える作業イベントを1回、外来種の駆除を兼ねた除草作業イベント「庄内用水で生きる生物について考えよう」を2回実施した。参加者数は作業イベントに 103 人、除草作業イベントに 203 人。（第1回：104 人、第2回：99 人）

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

地域で考え、作り上げた施設であり、都市部の中で自然を感じることができる空間。春にはハナショウブが咲き、多くの魚や昆虫を見ることができる。

2 きっかけ、背景

名古屋市における「水の回廊モデル事業」第1号モデル地域に選出されたことをきっかけに、都市部を流れるコンクリート三面張りの庄内用水を、昔親しんだ自然豊かな用水に復元し、住民が自然を学ぶことのできる地域の憩いの場とするために活動を始めた。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、子ども会、老人クラブ、光城小学校
平均約 15 人

(2) 他団体との協力

惣兵衛川を美しくする会、庄内用水を環境用水にする会、光城小学校、(公財)名古屋建設事業サービス財団、名古屋市

(3) 運営協力

学区連絡協議会、庄内用水を美しくする会

4 実施のスケジュール

H22 年 1 月 水の回廊モデル事業のモデル地区に制定される。

3 月～11 月 第 1～4 回ワークショップの開催

H23 年 2 月 作業イベントの実施

3 月 第 5 回ワークショップの開催
竣工式典

例年 10 月 除草作業イベントの実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 環境に対する住民の意識が高まり、地域と行政が協働して公園の維持管理を行うこととなった。
- ・ 地域と地元小学校児童との交流が深まった。
- ・ 昆虫や魚が増えるなど、自然環境の回復がみられる。



(2) 苦労した点

- ・ 住民の理解を得ることと、他団体の協力を得ること。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 担い手の世代交代を進めていくことと、他団体との協力体制を構築することが今後の課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 公園や川に親しみ、みんなで守っていくためには、子どもの成長過程において実際に携維持活動に関わる機会を設けることが有効である。



防災コラボ大運動会



【川中学区】

■世帯数：2,450 世帯

■人 口：5,707 人

■面 積：1.178km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

川中小学校を会場とし、防災の要素を取り入れた大運動会を実施している。延べ参加者数は約 450 人で、平成 24 年で取り入れて 8 回目となるが、年々参加者が増えている。

- ① 通常の運動競技レース
- ② 防災意識向上レース
- ③ 自主防災委員会を中心に自治会・女性会有志による炊き出し食事会

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、掲示板への掲示、子ども会や老人会をはじめとする各種団体より PR

【アピールポイント】

防災と運動会のドッキング！

加えて、学区 30 周年記念歌「川中につっここ音頭」で演出。

2 きっかけ、背景

「災害に強いまちづくり」をめざし、防災訓練の時だけでなく、各年代層が集まる運動会に「楽しい防災レース」や、「皆で炊き出し、仲間で食事をする」プログラムを取り入れることで、“絆づくりと健康づくりに防災意識向上”を加えた行事として実施している。

3 実施の体制

運営メンバー

体育委員会が企画・運営し、区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブが協力してスタッフ計約125人で実施



4 実施のスケジュール

4月16日 計画（実施方法と予算審議）



5月21日 方針決定



6月18日 運営委員による具体化討議



7月16日 連絡協議会へ実施計画の説明



8月 連絡協議会へ提案事項の消化



9月17日 全運営委員による進行確認・打ち合わせ



10月23日 大運動会実施

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 全年代層の参加が年々増加している。
- ・ 住民の防災に対する意識が高まり、運動会を通じて、住民間の交流が深まっている。
- ・ 行事の担い手が増加している。

(2) 苦労した点

- ・ より参加者を増やしていくため、その確保に苦労している。
- ・ 予算の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 役員、スタッフの高齢化により担い手の世代交代が必要。
- ・ 活動資金の確保が課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 行事のコラボ化で相乗効果が驚くほど増大。



安心・安全まちづくり



【味鋤学区】

■世帯数：5,632 世帯

■人 □：14,045 人

■面 積：1.685 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

安心・安全まちづくりとして、通学路を中心とする学区内の道路や駅周辺において、

- ① 子どもの見守り
- ② ゼロの日活動
- ③ 自転車盗防止キャンペーン
- ④ 交通安全・防犯パトロール

などを行っている。

【住民へのPR方法】

チラシの各戸配布、回覧

【アピールポイント】

交通安全・防犯を呼びかけるチラシを各戸に配布しながらパトロールを行っている。

2 きっかけ、背景

名鉄味鋤駅や水分橋は交通量が非常に多く、自転車の盗難等の犯罪や交通事故が絶えない。住民との交通安全についての情報共有や意識啓発の必要性を感じ、子どもから高齢者まで広く対象とした安心・安全まちづくりを実施している。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員
計約 100 人

4 実施のスケジュール

- ・ 月 1 回、交通安全パトロール及び防犯パトロールを実施
- ・ 登校日には登下校立ち番を実施
- ・ ゼロの日には、主要交差点での交通安全啓発を実施



5 成果と課題

(1) 成果・効果

住民の意識が高まり、住民間の交流が深まった。

(2) 苦労した点

参加者の確保に苦労した。

(3) 今後の課題・展望

担い手の世代交代が課題である。



みずから守る(水害に備える新しい減災活動)



【西味鋤学区】

■世帯数：2,318 世帯

■人 口：5,483 人

■面 積：0.691 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

愛知県の「みずから守るプログラム」(計 3 回)により、水害に備える新しい減災活動として、住民自身による地域の手づくりハザードマップの作成及びこれをもとにした大雨行動訓練を実施した。延べ参加者数は約 120 人。

- ① 第 1 回：街歩き及びハザードマップづくり
- ② 第 2 回：5 丁目の歴史について学ぶ
- ③ 第 3 回：5 丁目大雨行動訓練を実施

【住民への PR 方法】

チラシの各戸配布、回覧

2 きっかけ、背景

当学区は、平成 12 年の東海豪雨により大きな被害を受けた。また、平成 23 年には庄内川の増水により避難を余儀なくされた。そこで、こうした水害を教訓に、新しい減災活動として毎年の防災訓練をブロック別に行い、手づくりのハザードマップ作りに取り組んだ。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、消防団 計約 30 人

(2) 他団体との協力

NPO法人ウェザーフロンティア東海

4 実施のスケジュール

6月3日 第1回開催

6月17日 第2回開催

7月1日 第3回開催

5 成果と課題

成果・効果

- ・ 参加者及び担い手が増加した。
- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。

回 覧

みずから守る！

水害に備える新しい減災活動のご案内

あの悲惨な東日本大震災から、すでに1年が過ぎました。最近では、災害は忘れないうちにやってくる、といわれるように全国各地で災害、特に水害が発生しています。私たちが住む西味鏡地区でも、東海豪雨により大きな被害を受けました。また、昨年は庄内川の増水により避難も余儀なくされました。そこでこうした水害を教訓に、新しい減災活動を企画しました。このたび愛知県より「みずから守るプログラム地域協働事業」の委託を受け、住民自身による地域の手作りハザードマップの作成、およびこれをもとに大規模な訓練を行い、新しい減災活動を推進する事業に携わることになりました。その第一回目として、下記の防災セミナーを行うことにしました。往復の経路には、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。第二回目は6月17日(日)を予定しています。

日 時 2012年 6月3日(日) 13:00~17:00

場 所 西味鏡コミュニティセンター

対 象 者 西味鏡5丁目住民(要事前申し込み)

締め切り 5月25日(金)参加・不参加欄に押印
連絡先 小島自主防災会会長

募集人員 40名

セミナーの概要

- ①活動の趣旨、スケジュール等説明(WFT 会員)
- ②庄内川・新川水系における水害の歴史(WFT 会員)
- ③基礎的な気象知識、およびハザードマップの学習
・天気予報の見方、防災気象情報を知る、ハザードマップの見方(WFT 会員)
- ④DIG(災害図上演習)についての説明、その後個別に地域の防災点検活動へ
- ⑤班ごとに活動結果の検討、および手作りハザードマップのラフ案作成

主催:西味鏡・自主防災会
支援:NPO 法人ウェザーフロンティア東海

昨年9月20日庄内川氾濫の被害の様子



災害時における助け合いの仕組みづくり



【楠学区】

■世帯数：4,863 世帯

■人 □：12,869 人

■面 積：2.007 k m²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 災害時に支援の必要な高齢者等を対象に調査票を作成。調査票は勉強会を開催し、対象者への聞き取り調査を通じて作成した。
- ・ 対象は、65 歳以上の一人暮らしの高齢者と、75 歳以上の高齢者のみの世帯。
- ・ 自主防災訓練を実施し、延べ約 250 人が参加。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、回覧後自治会ごとに対象者への口頭説明を実施

【アピールポイント】

調査票作成時に、一人ひとり訪問して作成した。個人情報の保護については、訪問の折に丁寧に説明した。

2 きっかけ、背景

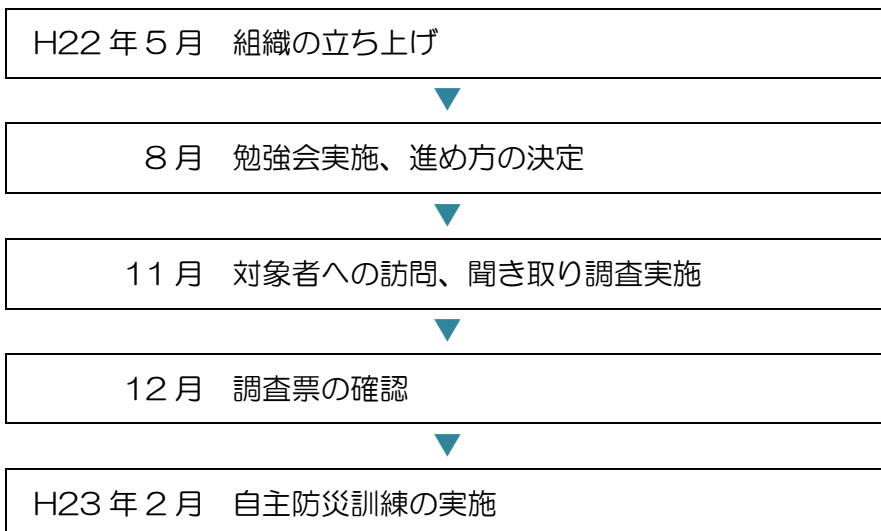
いつ起こっても不思議はない大規模な災害時の助け合いの必要性を感じ、住民との防災に関する情報共有や意識啓発を進め、地域の防災力を高めるために災害時における助け合いの仕組みづくりを実施。

3 実施の体制

- (1) 運営メンバー
区政協力委員、民生委員児童委員、消防団員
計約 20 人
- (2) 他団体との協力
民生委員児童委員協議会



4 実施のスケジュール



5 成果と課題

- (1) 成果・効果
 - ・ 調査票の作成を通じて、近隣に住む人のことがよくわかった。
 - ・ 防災に対する住民意識が高まり、住民間の交流が深まった
- (2) 苦労した点
 - ・ 対象者一人ひとりに口頭で説明したのが大変であった。
 - ・ 住民に活動への理解を得るのに苦労した。
- (3) 今後の課題・展望
 - ・ 各自治会での担い手の確保が必要である。
 - ・ 学区全体としては、非常時における他団体との協力体制づくりが課題である。
- (4) メッセージ・アドバイス
 - ・ 自助が第一だが、共助の部分は地域の助け合いが一番である。まずは仕組みづくりをできるところから始め、少しずつ要援護者の対象を広げるのがよいと思う。

老人(ひとり暮らし高齢者)給食サービス事業



【如意学区】

■世帯数：1,960 世帯

■人 口：4,913 人

■面 積：0.714k㎡

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- 如意会館（コミュニティセンター）において、65 歳以上のひとり暮らし高齢者を対象とした給食会を年6回開催。毎回約35人が参加。
- 給食ボランティアが中心となり、民生委員、女性会などの協力により手づくりの料理を提供するとともに、誕生日会や警察・消防署等の講話、参加者による作品づくりなどを行っている。

【住民へのPR方法】

対象者全員に民生委員からお知らせを毎回配付

【アピールポイント】

料理はすべて手づくりで、毎回参加者の好評を得ている。また地域から野菜等の無償提供を受けている。ボランティアの大部分が20年あまり、継続して活動してくれている。

2 きっかけ、背景

学区福祉推進協議会が設置され、ひとり暮らし高齢者の給食事業がその事業対象とされたことによる。給食ボランティアを募集したところ、10人ほどの応募があり、平成3年度より実施した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

給食ボランティア 10 人が主体となり、民生委員、女性会で運営。
(毎回約 15 人で運営)

(2) 他団体との協力

民生委員協議会、女性会

(3) 運営協力

給食ボランティアが高齢化しているため、後継者を育成する必要があると思っている。

4 実施のスケジュール

- ・ボランティアグループ A により 2 回開催
- ・ボランティアグループ B により 2 回開催
- ・民生委員を中心に 2 回開催 (うち 1 回は女性会の協力を得ている)

給食ボランティアによる学区事業への協力

- ・盆踊り大会においてきしめん販売の模擬店を担当
- ・敬老会等への協力

5 成果と課題

(1) 成果・効果

男性の参加者が少しずつではあるが、増えてきている。

(2) 今後の課題・展望

給食ボランティアの半数が、70 代と高齢化しており、担い手の世代交代が今後の課題。



子供まもり隊



【楠西学区】

■世帯数：2,605 世帯

■人 口：6,222 人

■面 積：1.133km²

平成 24 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

- ・ 小学校児童の安全のため、「子供まもり隊」として平成 17 年 4 月から活動している。
- ・ 小学校登下校時に通学路に立って声かけをする。
- ・ 朝の集合場所に不審者がいないか見回りをする。異常があれば学校へ通報する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧、各自治会の定例会で報告し、ボランティアを募集

【アピールポイント】

子どもたちの元気な顔を見ると活力が湧く。また、子どもたちと会話ができて、会うとあいさつをしてくれるのが嬉しい。

2 きっかけ、背景

子どもを狙う犯罪や、登下校時の交通事故などの発生を抑止しようと、住民からの要望、役員からの提案があった。平成 16 年 12 月に青色回転灯パトロール車が認可され、第一号車として登録したのがきっかけに「子供まもり隊」を結成した。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約 63 人

(2) 他団体との協力

連合、各種団体、ボランティア

(3) 運営協力

小学校 P T A に協力を要請していきたい。

4 実施のスケジュール

H17 年
3 月 12 日 第 1 回会合



4 月 10 日 発足 隊員 30 名



4 月 12 日 見守り開始。通学路 4 か所に 1 ~ 2 人ずつ配置



H19 年 1 月 隊員 78 名
毎年 1 月に全校生徒、教職員対象に防犯教室を実施



H24 年 9 月 隊員 63 名
隊員募集を継続

5 成果と課題

(1) 成果・効果

- ・ 住民意識が高まり、住民間の交流が深まった。
- ・ 情報が早く入ってくるようになった。

(2) 苦労した点

- ・ 参加者が減少し、見守り時の人員配置が難しい。
- ・ 若い世代の参加がない。

(3) 今後の課題・展望

- ・ 青パトの活動を増やしたい。
- ・ 世代交代を図ることが課題。

(4) メッセージ・アドバイス

- ・ 青パトによる夜間パトロールは効果が高い。

